

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年8月11日(2005.8.11)

【公表番号】特表2002-514247(P2002-514247A)

【公表日】平成14年5月14日(2002.5.14)

【出願番号】特願平10-530771

【国際特許分類第7版】

C 0 8 F 4/603

C 0 7 B 61/00

C 0 7 C 2/08

C 0 8 F 10/00

【F I】

C 0 8 F 4/603

C 0 7 B 61/00 3 0 0

C 0 7 C 2/08

C 0 8 F 10/00

【手続補正書】

【提出日】平成16年12月10日(2004.12.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手続補正書

平成16年12月10日

特許庁長官 小川 洋 殿

## 1. 事件の表示

平成10年特許願第530771号

~~PCT/NL 97/00696~~

## 2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 オランダ国, 6411 テーイー ヘーレン,  
ヘット オーバールーン 1

名称 ディーエスエム エヌ. ブイ.

## 3. 代理人

〒105-0003

住所 東京都港区西新橋 2-19-2. 西新橋YSビル3階

電話 03 (5401) 2521

氏名 (8554) 弁理士 松井 光夫



## 4. 補正により増加する請求項の数 なし

## 5. 補正対象書類名 特許法第184条の5第1項の規定による書面

## 6. 補正対象項目名 (1) 特許請求の範囲

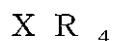
## 7. 補正の内容

(1) 「特許請求の範囲」を別紙の通り補正する。



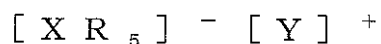
## 請求の範囲

1. オレフィンを遷移金属触媒および助触媒に接触させることによるオレフィンの重合法において、助触媒が式：



[式中、XはSi、Ge、SnまたはPbであり、Rは、水素またはアルキル、アリール、アリールアルキルもしくはアルキルアリール基であり、ここで少なくとも1つのR基は水素ではなくかつ1以上のハロゲン原子を含む。]に従う化合物であることを特徴とする方法。

2. オレフィンを、重合条件下、遷移金属触媒および助触媒と接触させることによるオレフィンの重合法において、助触媒が式：



[式中、XはSi、Ge、SnまたはPbであり、Rは、水素またはアルキル、アリール、アリールアルキルもしくはアルキルアリール基であり、ここで少なくとも1つのR基は水素ではなくかつ1以上のハロゲン原子を含み、Yはカチオンである。]に従う化合物であることを特徴とする方法。

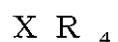
3. 遷移金属触媒がメタロセン触媒であることを特徴とする、請求項1または2に記載の方法。

4. 遷移金属触媒が、低下された酸化状態にある遷移金属を含むことを特徴とする、請求項3に記載の方法。

5. 少なくとも2個のR基が一緒になって架橋されたアリール基を形成することを特徴とする、請求項1～4のい

れか 1 つに記載の方法。

6. 式：



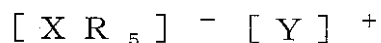
[式中、XはSi、Ge、SnまたはPbであり、Rは、水素またはアルキル、アリール、アリールアルキルもしくはアルキルアリール基であり、ここで少なくとも1つのR基は水素ではなくかつ1以上のハロゲン原子を含む。]に従う化合物をオレフィンの重合における助触媒として使用する方法。

7. 式：



[式中、XはSi、Ge、SnまたはPbであり、Rは、水素またはアルキル、アリール、アリールアルキルもしくはアルキルアリール基であり、ここで少なくとも1つのR基は水素ではなくかつ1以上のハロゲン原子を含み、Yはカチオンである。]に従う化合物をオレフィンの重合における助触媒として使用する方法。

8. 式：



[式中、XはSi、Ge、SnまたはPbであり、Rは、水素またはアルキル、アリール、アリールアルキルもしくはアルキルアリール基であり、ここで少なくとも1つのR基は水素ではなくかつ1以上のハロゲン原子を含み、Yはカチオンである。]に従う化合物。